

【藤澤茂助という人】

藤澤茂助は、ふたつの人生を生きた人です。前半は会津藩士として、とりわけ「大砲巧者」として知られた人でした。人生の後半は塾講師として生き、20年後に轟木小学校校長として轟木の地で亡くなりました。その人生は、波乱に満ちたものでした。



【前半生は大砲巧者】

会津藩士の家に生まれた茂助は、父佐源治に伴われ、江戸湾沿いの陣屋に派遣され、大砲と出会います。そこでアメリカのペリー艦隊を目にして大砲の威力を知り、その修業をはじめ、やがて「大砲巧者」として知られます。

その会津藩は幕府から京都守護の役を任命され、藤澤茂助も京都に出ることになります。鳥羽伏見の戦い(1868年)で会津藩の属する幕府軍は薩長側に敗れ、茂助らは辛うじて会津・若松に辿り着きます。

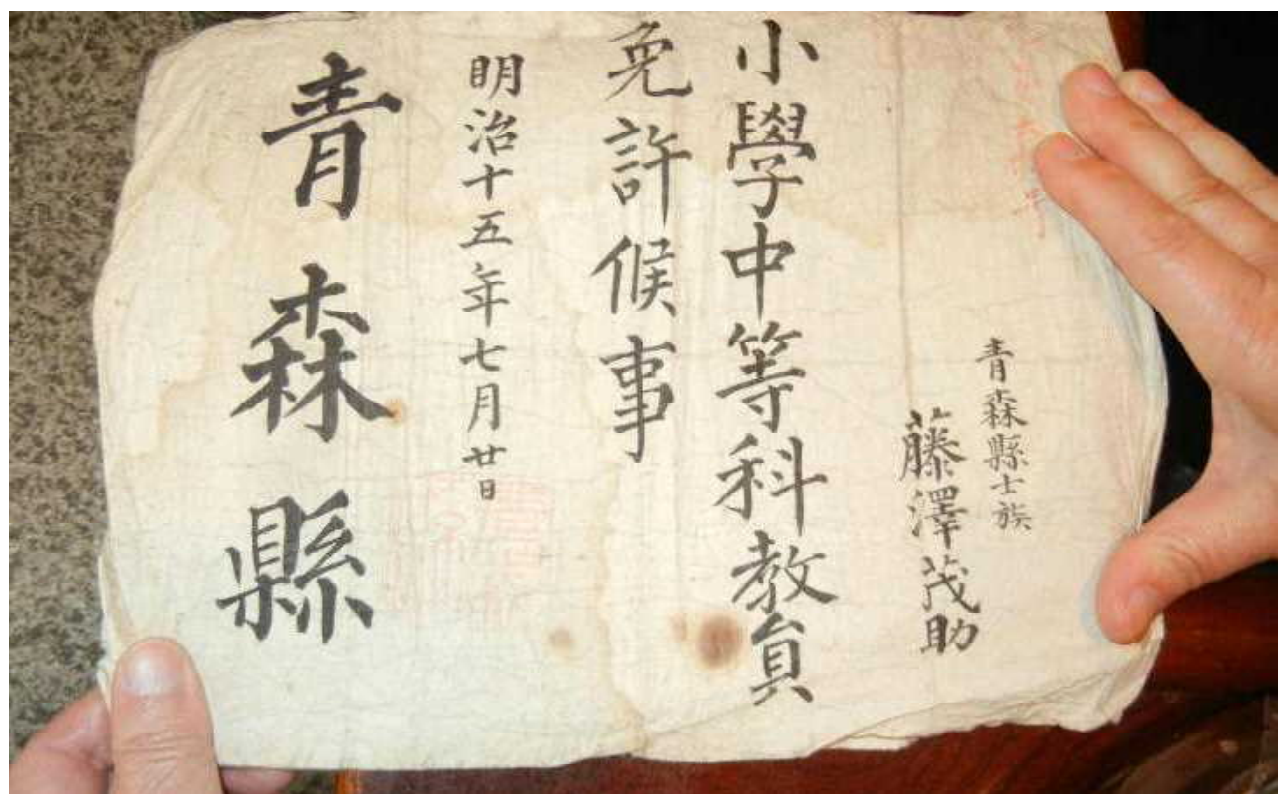
しかし、若松城は西軍(官軍)に包囲され、結局開城。茂助らは斗南藩となった会津藩士のひとりとして、五戸に着きました。

【百姓としての茂助】

五戸の地において茂助ら斗南藩士は大変苦勞します。藩士の大部分は藩からの援助もほとんどなく、自活の道をはじめます。その中で地元の百姓との交渉が生まれ、茂助は百姓の仕事や生活の実態をはじめて知ります。

百姓は苦勞して食料を生産しているのになぜ武士の下におかれ、商人からは借金で苦しめられているのか。それは百姓は学問を身につけていないからだ。その後の茂助の教育にかける熱心さは、その気持ちに裏打ちされているように思います。(以下次号に続く。)

藤澤茂助の教員免許



- 【参考】 ☆「はちのへ町内風土記」(デーリー東北)
 ☆「とどろき百年」(八戸市立轟木小学校)
 ☆「流れる五戸川」(各巻) ☆「続はちのへ今昔」(2005年8.9月号)
- 【お話と資料】 ★藤澤茂登氏(おいらせ町・藤澤製菓)

